

第2回 総合計画審議会(交流分科会) 議事要旨

日時 平成 22 年 2 月 22 日 (月) 午後 3 時 00 分～5 時 00 分

場所 横須賀市消防局庁舎 4 階災害対策本部室

出席委員 細野助博委員(座長)、伊藤智委員、小野間重雄委員、土橋雅一委員、永田翔吾委員、西原徹委員(以上 6 名)

事務局 横須賀市都市政策研究所 福本課長、小澤主査、檜山主任、山中主任

傍聴者 市民 1 名

議事内容

1. 委員紹介
2. 報告事項
3. 審議事項
4. その他

1. 委員紹介

(細野座長)

- ・ 横須賀市観光協会の中村一郎委員に代わり、伊藤智委員が新たに就任しました。
- ・ それでは、私から順に半時計回りに自己紹介をお願いします。
- ・ 交流分科会の司会を務めることになりました細野でございます。中央大学総合政策学部に所属し、公共政策、都市政策、特に中心市街地活性化を専門としており、立川市、浜松市、金沢市で委員を務め、現在は福生市の委員会の座長を務めています。横須賀市には学生を連れて研究旅行で一泊したことがあります。
- ・ 本日の交流分科会は出席人数が少ないので比較的多く発言できると思いますので、よろしくお願い致します。
- ・ 人口には、昼間・夜間人口、定住・交流人口、休日・平日人口、中心市街地・郊外の人口、若年と中高年などの年代別人口、性別人口、自然・社会増減など様々な切り口があります。これらの切り口で交流という現象を捉えなければ有効な方策は生まれなと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(西原委員)

- ・ 西原でございます。横須賀市内に約 360 ある町内会の連合会の会長として参加しております。地元は大津地区の馬堀海岸で、埋め立て当初の 36 年前から住んでおり、シーハイツ 1 丁目町内会の会長を務めております。地区は、大津地区連合町内会に属しています。
- ・ 共生分科会では、クリーンよこすか市民の会の副会長の加藤委員と、横須賀市安全・安心まちづくり推進連絡協議会の副会長の高須委員が参加されておりますが、私は両会の会長を兼ねております。防犯、クリーン活動など幅広い立場の市民の代表的な役職としても、意見を申し上げさせていただきたいと思ひます。

(永田委員)

- 永田と申します。公募で委員に就任させていただいております。神奈川大学経済学部の2年次に属しています。この審議会では、大学生が私を含めて3人おり、それぞれ異なる分科会に属しています。3人でそれぞれ意見交換しながら、学生らしく自分たちも勉強する気持ちで参加できればよいと話しております。学生として知識面では皆様に劣る面もありますが、今後、自分の力を高めていくためにも真剣に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(土橋委員)

- 三浦半島地域連合に所属しております土橋と申します。出身母体は、日産自動車の追浜工場にある組合の中にございます。企業単位、あるいは一市民からみた横須賀について皆さんとコミュニケーションを取りながらよい方向に向かっていければよいと思っています。
- 立川に居住したこともあり、また福生にもよく足を運んでいたもので、両市の変貌をよく知っております。横須賀のまちも同じようになればよいなと考えております。将来が見える形で話し合いができればよいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

(小野間委員)

- 神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター所長の小野間でございます。昨年4月にこちらに赴任して参りました。それまでは本庁で会計局長を務めていました。横須賀市にはこれまであまり縁がありませんでしたが、赴任して以来、横須賀市は自然環境に恵まれており、太陽がきらきらして明るい印象を持っています。また、商工業・農林水産業も立地しており基盤がしっかりしていると感じています。一方、人口減少もあり、また、半島のため交通基盤ももう一息という印象も持っています。そうした中で横須賀市が活性化する一助になればと思っておりますので、皆さん、よろしくお願い致します。

(伊藤委員)

- 横須賀市観光協会の代表の伊藤と申します。普段は JTB 横須賀支店長を務めております。今年2月1日付けで着任して参りました。現在、横浜に住んでいて、営業エリアも横浜市内だったこともあり、神奈川県にはゆかりがあります。観光産業に従事しているので、観光や旅行などの切り口が多くなるかもしれませんが、ご容赦願いたいと思います。
- 旅行というと、居住地から域外への旅行・流れがあると思いますが、ここ数年、JTBは全国各地にある支店で、各地域の魅力を掘り起こし、地域活性化につなげる動きに力を入れております。このような観点からも発言させていただきたいのでよろしくお願い致します。

(細野座長)

- ・ 皆さん、ありがとうございました。
- ・ 会議次第でございますように、報告事項に入りたいと思います。(1) 第1回総合計画審議会の議事要旨について、(2) 人口等について、(3) 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会(平成22年1月26日開催)について、それぞれ事務局より説明をお願いします。

2. 報告事項

(1) 第1回総合計画審議会の議事要旨について

(事務局)

- ・ 第1回総合計画審議会の議事要旨について確定したので、お目通しください。
 - (2) 人口等について
 - (3) 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会(平成22年1月26日開催)について
- (事務局)
- 資料1、資料2、資料3を説明

(細野座長)

- ・ ただいまの説明にご質問などがありましたら、お願いします。
- ・ 前は、皆さん、出席されましたか。

(事務局)

- ・ 欠席者は3名です。

(伊藤委員)

- ・ 藤沢市の人口が増え続けているのは、都内への通勤が便利であることが理由の1つだけのことですが、本当に、企業誘致や工場の新設などの取り組みではなく、単に通勤に便利だからという理由だけで人口が増加しているのでしょうか。

(事務局)

- ・ 理由は特定できませんが、1990年から長期的にほとんど転入超過の状態が続いているので、一時的な企業誘致による影響ではないと考えられます。首都圏における地の利の良さは1つの要因になっているものと考えられます。

(細野座長)

- ・ 品川からの電車による移動時間はどの程度ですか。

(事務局)

- ・ 品川から横須賀までは50分ぐらいかかります。藤沢であれば、東海道線を利用すればもう10分ほど早く着くことができます。

(永田委員)

- ・ 湘南新宿ラインの開通後、新宿方面への利便性が高まったことによる影響があるのではないのでしょうか。

(細野座長)

- ・ 交通条件は調べる必要がありますね。地価はどうなっているのでしょうか。

(事務局)

- ・ 確認しておりませんので、確認させてください。

(土橋委員)

- ・ 資料1で市外に転居した子どもの転居の主な理由は結婚であるという説明がありましたが、市外に出ることと、人口減少が結びつかない感じがします。横須賀市のまちに魅力がないから流出するのか、結婚相手が市外だから出ていくのか、詳細を教えてもらうことはできますか。

(事務局)

- ・ このアンケート調査は転出意向に関する調査ではなく、高齢化する郊外型団地の課題をメインのテーマとした調査のため、これ以上細かなことは聞いておりません。

(細野座長)

- ・ 資料3で野村委員が「市外に別居した子どもの転居理由の1位が『結婚』となっているが、単純に判断できない。例えば、結婚を機に通勤に便利なところに転居するケースがある。」と指摘しています。
- ・ 結婚後、どこに住むかは女性に決定権がある場合が多いと思います。

(西原委員)

- ・ 男性の方の理由もあるでしょうが、女性の方の理由も大きいと思います。例えばマンションを購入する際は、わざわざ横須賀市のマンションを購入するよりは、横浜市、あるいは都内を選ぶことが多いと思います。ただ、結婚と、通勤・通学の事情が合致しているのか、つまり、結婚が理由なのか、それに従う通勤が理由になっているのか、また、親世帯との独立も関連しているのでしょうか、それぞれが密接に関連しているように思います。結婚・独立の際は、女性の意見が重視されるのでしょうか。
- ・ 川崎市は都内よりもマンションが急増していると聞いています。横須賀市から川崎市に移っているのかもしれませんが。いずれにしても結婚が理由の6割を占めるというのは意外な結果でした。

(小野間委員)

- ・ 結婚の分析はなかなか難しいですね。最近では共働きも増えており女性の実家近くに住むことが多いと思います。結婚を理由として6割が市外に出るのは理解し難い部分も

あるので、ある程度の傾向のようなものがわかるとよいと思いました。

(細野座長)

- ・ ありがとうございます。一通り意見をいただきましたので、報告事項については終了したいと思います。次に審議事項に入りたいと思います。第4章まちづくり政策の大柱の1、そして第5章まちづくりの推進姿勢について事務局より説明をお願いします。

3. 審議事項

(事務局)

資料3・4・5説明

(細野座長)

- ・ 今後のスケジュールについて、今回と次回の2回で施策体系の枠組みを作りたいという目標がございます。本日は、第4章の大柱の1、第5章のまちづくりの推進姿勢の3つの大柱について、ご意見をいただきたいと思います。次回は施策体系の枠組みを作ることができればと思います。それでは、資料をもとにご意見をお願い致します。

(永田委員)

- ・ 第4章の「いきいきとした交流が広がるまち」の小柱1-1-1「地域資源を生かした魅力づくり」について、地域資源というと、まず自然資源が思い浮かんできます。例えば、横須賀市には緑も海もあり、確かに自然資源も豊かだと思えますが、横須賀市に暮らしていると、工業資源も豊富にあると感じます。例えば、日産自動車の工場、NTTやNTTドコモの研究開発拠点など、他にみられない工業資源があります。そうした工業資源に子どもが興味を持ってもらえるよう学校と企業との連携を促進していく必要があるのではないのでしょうか。企業と大学あるいは高校との連携はよく聞きますが、小学校、中学校のうちから連携ができないのでしょうか。

(小野間委員)

- ・ 同じく、小柱1-1-1「地域資源を生かした魅力づくり」について、豊かな自然や歴史、生活文化など地域固有の資源が多くありますが、これらを守って活動している団体も数多くあります。自主的に活動を行っている団体と横須賀市が連携して、また協働を進めることによって団体の活動を活発化する必要があると思います。そうすることで、横須賀市の魅力の再発見・再認識をする機会の増加につながり、住民の手によって魅力的なまちづくりができることになると思います。
- ・ 横須賀市は、猿島公園専門ガイドの認定など魅力的な取り組みを行って成功していると思いますが、三浦半島地域は日帰り観光が中心になっています。神奈川県では、「観光かながわランドデザイン」を策定し、三浦半島地域においては、「半島ならではの魅力を活かした周遊型観光の展開」「地域の資源を活かした体験型・宿泊型観光の展開」などが将来像として描かれています。こうした内容も反映してもらい、周辺市町とも連携して魅力的な観光資源を出し合って周遊プランを策定すれば、一層集客に

つながっていくと思います。

(細野座長)

- ・ 第5章に含まれる「広域連携」、「新しい公共」という考え方に関連する指摘ですね。

(伊藤委員)

- ・ 総花的な話になりますが、永田委員の指摘に関連して、現在、川崎市や横浜市鶴見区、千葉などの工業地帯を見学する行政と連携した企画がヒットしています。工場群は日中のみならず夜景もきれいで、夜通しで撮影したり、その写真はブログに掲載されたりしています。指摘のあった工業資源はキーワードの1つになると思います。
- ・ 小柱 1-1-1「地域資源を生かした魅力づくり」について、横須賀市は、資源自体は豊富にあると思うので、新たに何かをつくるよりも中柱「2 交流を支える情報の発信」の方が重要になってくるのではないかと考えています。魅力ある横須賀市の資源を末端まで行き届かせるような取組みが重要だと思います。
- ・ さらに総花的な話になりますが、人に来ていただくのに一番重要なのは、すれ違ったら挨拶をするなど市民のホスピタリティだと思います。来ていただいた人におもてなしの心をどう伝えるのか、浸透させることが大変重要なことだと思います。

(細野座長)

- ・ 川崎市の京浜臨海部はデートスポットになっています。港湾機能には観光を取り入れて検討する必要があると思います。
- ・ 小柱 1-2-1「集客につながる魅力の発信」については、藤沢市のふじさわ電縁マップのような取組みができないでしょうか。横須賀集客促進実行委員会（横須賀市、横須賀商工会議所、京浜急行電鉄）が観光マップを作成していると思いますが、ホームページの階層の深いところにあり探しにくく、簡単にアクセスできるような戦略を立てる必要があります。また、藤沢市では市民がコンテンツを作成しており、どのような形で市民を入れ込むかについても考える必要があります。

(西原委員)

- ・ 横須賀市の地域資源は、海、丘、景色、観光というように素晴らしいものがあるので、埼玉県や都内など内陸部から来た人からみれば魅力的だと思います。しかし、人を呼び込むための集客につながっておらずもったいないと思います。日帰りの集客にはある程度取り組んでいますが、宿泊観光の取組みは物足りなく思います。
- ・ 例えば、駐車場についても、ある時期には、横須賀港までバスでも駐車するスペースもなく、新港も時期によっては使用できずソレイユの丘までバスを駐車しに行ったと聞いたことがあります。また、お客を乗降させるための場所も不足していると聞いています。宿泊場所も少なく、また、ホテルの客室数も少なくなっています。横須賀市を元気にするプロジェクトで毎月会合が開催され、私も時折参加していますが、人を呼び込むための駐車場や宿泊施設の不足などの課題が挙げられています。横須賀市は他市と比べてすばらしい地域資源があるのに、バスが行き止まりである、駐車場

が不足しているなど、大変もったいないと感じます。貴重な地域資源を活かせるよう、駐車・宿泊スペースを拡充する必要があると常々思っております。

(細野座長)

- ・ 駐車場や宿泊施設をネットワークで結ぶような取り組みも必要ですね。また、環境への配慮もあるので公共交通の利用も促進する必要があると思います。

(土橋委員)

- ・ 骨子案の内容は全て横須賀市を中心とした切り口だけに見えますが、横須賀市は三浦半島の入口に位置するので、他に入口や出口という切り口もあると思います。中心と捉えるだけでは、横須賀市から先が發展せず出口戦略を立てることができません。
- ・ 他の半島の事例をみると、例えば、能登半島では、金沢で観光し、能登で宿泊するという、入口と出口の管理ができていているように思います。横須賀市を観光地としてみるのか、宿泊地としてみるのかで骨子案も変化してくるはずで、中心だけでなくもっと入口・出口という観点からバランスよくみると、内容にもっと広がりが出てくると思います。地域資源は豊富なので、集客をするのならば、横須賀を中心とするだけでなく、情報・交通などももう少しバランスよく検討しなければならないはずです。

(細野座長)

- ・ エリアマーケティングが非常に重要です。京浜急行の各駅の乗降客数はどう変化しているのか、具体的なデータを精査して、どこを基点として入口・出口とするのか戦略を検討する必要があると思います。
- ・ ところで、他に幕末からの歴史資源もあるのではないのでしょうか。

(永田委員)

- ・ アルバイトで塾講師をしています。横須賀市のホームページから歴史の資料をつくと中学生は関心を示してくれます。子どもが行きたいと言えば大人は付いてくるので、まずは子どもに受けるような観光ガイドをつくってもよいのではないのでしょうか。子どもが少ないので子どもが大勢来てくれるのは難しいかもしれませんが、横須賀からの流出を防ぐ観点から、例えば、横須賀市の成り立ちや發展、将来像をわかりやすく示す資料を作成し、横須賀市と学校で連携して教育の場で活用してもよいのではないのでしょうか。

(細野座長)

- ・ NHKの大河ドラマ「龍馬伝」の最後に出てくるご当地案内で、横須賀市は取り上げられないのでしょうか。

(西原委員)

- ・ 坂本龍馬の地元である高知市や京都市は別として、大津地区のように、坂本龍馬とおりょうさんをセットにして売り出すことができる地域は他にありません。おりょうさ

ん祭りを大津で年1回開催すると、市外から竜馬会の会員などを中心として結構な人が来ますが、近年は一般の人も増えています。横須賀市は、龍馬やペリーなど歴史上の人物にゆかりのある地なので、観光だけでなく文化的資源ももっと売り出さねばならないと思います。

(細野座長)

- ・ 子どもたちが横須賀市に誇りや愛着をもつことが、横須賀市から出ていくかどうかにとっては重要なことのように思います。

(伊藤委員)

- ・ JTБの横須賀支店に来られる関係者の中には、間違っテ JR 横須賀駅に来られる方もいらっしゃいますが、その際、横須賀港の景色は素晴らしかったという感想をお聞きすることがあります。
- ・ JR と京浜急行は競合していますが、うまくアライアンスを組むことができないでしょうか。JR は、各エリアで地元の観光資源の掘り起こしに力を入れており、「冬の京都」など毎年 JR 6 社で共同キャンペーンを展開しており、広告にかける思いは大変大きなものがあると思います。例えば、横須賀駅と横須賀中央駅を拠点として、広域観光でキャンペーンを行えば、三浦半島のみならず逗子や鎌倉も入れて JR の力も借りて上手く情報発信することができ、面白い取組みができるのではないのでしょうか。

(細野座長)

- ・ 新しい視点ですね。沿線価値の向上はどの鉄道会社も力を入れているので、アライアンスを組めるかもしれません。
- ・ それでは、第5章のまちづくりの推進体制のほうに話を移したいと思います。まずは、大柱の「1 市民協働によるまちづくりの推進」についていかがでしょうか。

(西原委員)

- ・ 市民協働については、横須賀市は他市よりも進んでおり熱心だと思います。協働の人材には恵まれていると思います。協働の推進に係る委員会に参画したことがありますが、発表を聞いているとよいアイデアが非常に多く出てきます。行政への市民参画も進んでいるのではないかと思います。

(細野座長)

- ・ 市のホームページへのアクセス数は近辺と比べて高い方ですか。

(事務局)

- ・ 具体的な数字は持っていませんが、高いと思います。

(小野間委員)

- ・ 地方分権が進展し、全国画一的なまちづくりから地方の実情にあった取り組みが進む中で、市民の参画が一番大切になってくると思います。現行案の「情報公開・情報提供の充実」という小柱から骨子案では「情報提供」という用語がなくなっていますが、情報公開とは別に積極的に情報を出していくという方向性を打ち出すために、「情報提供」という言葉は残しておいた方がよいと思います。骨子案における小柱の右側に「各分野の情報を積極的に提供します」という文章がありますが、この文章の位置づけがどのようなものかわかりませんし、「積極的な情報提供」をもっと目立たせた方がよいと思います。
- ・ 「広聴活動の充実」についても市民参加という意味では、政策立案・事業の実施における提案など政策提案のスタンスを前面に出したほうがよいと思います。

(事務局)

- ・ 前回の計画では「情報公開・情報提供の充実」で1つの小柱でしたが、骨子案では、中柱「2 広報広聴活動の充実」の中で、新たな小柱「広報活動の充実」を立てています。これまでは1つの小柱の中で情報の公開と提供を取り上げていましたが、情報提供の取組み不足については市民からも多くの声が挙げられており、より情報提供の取組みを積極的にする意味で小柱を独立させた経緯があります。

(小野間委員)

- ・ 私もそう思いましたが、上の小柱「情報公開・個人情報保護の充実」の方に「各分野の情報を積極的に提供します」という説明が入っているのでわかりにくくなっているのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・ 小柱の説明を書き込んでいく際にご指摘の点は注意して入れ込むようにします。

(土橋委員)

- ・ 「市民協働によるまちづくり」とありますが、市民に何を求めているのか、また、市民と企業にどのようにまちづくりに協働してもらおうとしているのかよくわかりません。求めていることと対応すべきことが混在している気がします。

(細野座長)

- ・ 横須賀市として「まちづくり」をどのように捉えているのか、という根元的な質問ですね。

(事務局)

- ・ 平仮名の「まちづくり」では、ハード整備だけでなくソフトも含めて市政全般を捉えています。そのため、様々なルールやものをつくっていくときにも市民と一緒に考えていく姿勢です。まちづくりの守備範囲は広く捉えています。

(細野座長)

- ・ 市民に賢く判断してもらうために基礎情報を提供するのが情報提供であり、広報広聴は市の考え方をPRして意見をもらうことだと考えられます。客観的なものと意図的なものに分けて捉える必要があります。解説部分で書いておけばよいと思います。

(永田委員)

- ・ 小柱2-1「広報活動の充実」について、「すべての市民に必要な情報を伝える」とありますが、市外にも伝えてはどうでしょうか。横須賀市のホームページは使用しやすいのですが、横須賀市がPRしたいこと、あるいは横須賀市が他と協働してPRしたいことを、例えばバナー広告のような形で掲載するような機能を新たに追加してはどうでしょうか。市内に住んでいてもわかりにくい情報があるのに、市外に住んでいると一層情報は伝わりにくいと思います。市内外両方を含めて情報提供だと思います。

(細野座長)

- ・ 永田委員に宿題を与えます。横浜市と藤沢市、横須賀市のホームページを比べて、よいところと悪いところを次回までに報告してください。

(西原委員)

- ・ 広報活動について、紙以外のインターネットや電波による広報は、市外にも伝わるのでよいと思います。そういう意味で、広報活動の範囲を広げるのは大事なことだと思います。
- ・ 横須賀市では、新聞形式の広報紙とお知らせ版が月2回配布されています。現在の市長は駅頭で配布するように提案しているようで、その後どうなったのかは知りませんが、現在の各世帯に配布している広報紙は是非とも継続してほしいと思います。遍く市民が見ることができるためには紙であり保存ができるものでなければならず、現在の体制を崩さないでほしいと思います。市の考えていることの宣伝、呼びかけを広報紙で行うことは基本だと思いますので、なくさないでほしいと思います。現在の方法にプラスアルファで市のPRを考えてほしいと思います。
- ・ 県のたよりも市の広報紙とセットで、市の広報課から直接町内会に配布されており、さらに町内会を通じて各世帯に配布されています。市の広報だけ配布をやめるのは意味がないと思います。

(細野座長)

- ・ 大変大事な指摘だと思います。広報紙や地域紙はかなり読まれています。多摩地域では、子どもの父兄が広報誌や地域紙で就活セミナーの案内を見えています。

(伊藤委員)

- ・ 第4章のまちづくり政策は非常にわかりやすいと思います。第5章の究極的な目的も、交流分科会として、人口減少を防ぐこと、定住人口を増やすことにあるのでしょうか。第5章の位置づけを確認させてください。

(事務局)

- 交流分科会という名称は、「いきいきとした交流が広がるまち」から取ったものですが、第5章の内容と交流とは関係ありません。分科会で議論していただくキーワードとして「交流」という言葉を付けています。第4章は対市民へのサービス、つまり施策をどう展開していくのかという内容で「まちづくり政策」としてしています。一方、第5章はまちづくりの推進姿勢として行政の市政運営に関する方針を掲載しており、両者は記述のトーンが違います。両者を1つの章にまとめて計画としている自治体もみられますが、本市では2つに分けた章立てとしています。3つの分科会で均等に分担するということから、交流分科会では第5章を対象とさせていただいています。交流とは毛色が違いますが、行政全体の運営姿勢についてご意見をいただきたいと考えております。

(細野座長)

- まちづくりの最終的な責任は行政にあります。本来であれば戦略分科会といったほうがよいかもしいほど大事な章であるという認識のもと、皆さんに議論していただきたいと思います。要は、人口を増やすためにどうすれば官民一体となってどのように進めていくのかという視点で議論していただきたいと思います。

(土橋委員)

- 先日、新宿で開催された各地域の物産展に行ってみましたが大変好況でした。そこで、考えたのですが、横須賀市は物産展に何を出展するのでしょうか。カレーしか思いつきませんでした。買い物をするとその地域の地図や観光案内の情報が付いており、何かの機会にその地域に行ってみようかと思いません。栃木県とおつきあいがありますが、イチゴのお返しに何を送ってよいかもわかりません。名産品には、広報力もありお金もかからず、デパートから逆に来てくださると声をかけられるようなケースなど成功している地域がたくさんあります。何か参考になるのではないのでしょうか。また、そうした地域では、市民は地域の外に出て地域の自慢をしながら販売してくれています。そうすると、地域として市民として参加しやすい呼び込みや、まちづくりに発展し、1-3-1の小柱で書かれている「自らの創意を生かしながら地域のまちづくり活動を進める」ということにつながると思います。市民にとって、まちづくりのイメージが湧くような取り組みを記述に加えた方がよいように思います。

(細野座長)

- 横須賀市の農業は周辺と比べてどうですか。

(事務局)

- スイカやメロンなど高価な商品作物はどちらかといえば三浦市です。イチゴ狩りやミカン狩りの観光農園はあるが、特産品となるとわかめぐらいしか思いつきません。

(西原委員)

- ・ 横須賀市と三浦市は本来一体的でなければならないと思います。「横須賀・みうら半島を元気にするプロジェクト」の名称が平仮名でみうら半島となっているのは、漢字にすると逗子・葉山が入ってしまうためです。観光や農業なども三浦市に呼びかけて一体的に取り組まなければならない。横須賀市では軍港巡りをして観音崎をみて、三浦半島の城ヶ島まで行ってみたいくなる、そうすると宿泊需要が生じるはずです。

(小野間委員)

- ・ 神奈川県横須賀三浦地域県政総合センターの所管は「横須賀三浦地域」ですが、横須賀市は三浦半島の中心であり、半島全体を牽引する存在になっていただきたい。

(細野座長)

- ・ 今回の基本計画の計画期間はいつまでですか。

(事務局)

- ・ 11年後の平成33年度です。

(細野座長)

- ・ それまでの期間には市町村合併の話も出るかもしれませんね。

(事務局)

- ・ 三浦市との合併は以前から出ております。

(伊藤委員)

- ・ 横須賀は、海軍カレー、ヨコスカネイビーバーガーが有名で、そうしたものがあること自体がすごいと思います。住んでいると気付かないが、外からみるとすごいものがあり、気づきが大事だと思います。隠れた名品があるのではないのでしょうか。例えば、横須賀市だけの物産展を市民からアンケートして、市だけのベストテンを実施してはどうでしょうか。決して産品がないわけではないと思います。そのようなことも含めて広報活動を充実してほしいと思います。

(事務局)

- ・ 現在、経済部で、横須賀市の名品をつくろうというコンテストを3年間で行っています。市外の物産展に出せるレベルとなるとなかなか思いつきませんが、海軍カレーも前回の計画以降に仕掛けられたものであり、ネイビーバーガーもここ2～3年の仕掛けです。現在は、ニューヨークスタイルのチーズケーキを仕掛けようとしています。それも、横須賀市に来ないと食べられないような戦略で進めているところです。外に持っていくということを取敢えてしていません。

(細野座長)

- ・ 福生は基地との交流祭があり、基地内に来ないと購入できないものがあります。基地との連携も少し考えていただきたいと思います。

(事務局)

- ・ 横須賀市でもフレンドシップデーなどがあり、10万人単位で来客があり、基地内でピザの販売などが行われます。

(細野座長)

- ・ そうしたことをホームページに掲載しても面白いかもしれません。

(永田委員)

- ・ 海軍カレーもネイビーバーガーもその場で提供されるものとなると日持ちしないので来てくださいというのは正解だと思います。

(細野座長)

- ・ 9頁大柱「2 効率的な都市経営の推進」についてもご意見はありませんでしょうか。地方分権や地域主権といった用語が一般化しつつあります。また、優れた行政を行うことは都市間競争において非常に重要となっています。
- ・ まちづくり基本条例の策定状況はどのような計画になっていますか。

(事務局)

- ・ 来年度から2年間かけて条例を作る予定です。

(永田委員)

- ・ 「効率的な都市経営の推進」の「効率」という言葉には短期的なコスト削減の話に行きがちですが、中柱「2 市政を支える意欲と能力のある人づくり」の人づくりについては、効率性とどう結びつけるか疑問です。市政を支える意欲と能力のある人は、横須賀市に愛着を持った人のことだと思います。こうした人を意欲と能力のある人に育てることは、長期的に取り組んでいく必要があることだと思います。それに、どのように計画を立てて取り組んでいくのかも盛り込めるとよいと思います。

(細野座長)

- ・ 行政組織の効率化のために長期的に人的資源をどうするかという問題ですね。

(土橋委員)

- ・ 「柔軟な組織・執行体制づくり」や「市政を支える意欲と能力のある人づくり」や「健全な行財政運営」などがありますが、行政がどのように市民の中に入っていきのかみえないと議論にならない話だと思います。市民の情報のみで判断すると、単なるわがままなのか本当に困っているのかわからず大きな失敗につながる恐れがあります。市民

の情報を市民の中から拾うのではなく、行政が市民の中に入って本当の情報をどのように拾っていくのか、その部分の体制が現在どうなっているのかお聞きしたいと思います。

(事務局)

- ・ 市民に最も近いところにいるのは、9行政センターの職員です。新市長になって、行政センターの機能強化をしたいと思います。その背景として、これまでの行政が市民感覚から離れた存在になっているという見方があり、行政センターを強化して、地域自治を進めるためにも行政センターが市民の中に入っていく政策を採ろうとしています。ご指摘のような、いかに市民の中に入っていかという観点で、行政の運営の仕方を変えていくというのは重要な視点ですし、そういう方向に行こうとしていますので、それがわかるような書き方にしたいと思います。

(土橋委員)

- ・ それが明確になると情報システムの充実と行政の効率的な運営のあり方が明確に見えてくると思います。若い人にはインターネットで十分である一方で、寝たきりの老人にはどのように伝えているのかという問題がみえてきて、そうすると効率的で機動的な行政運営ができてくるはずなので、そういう組織、体制づくりをお願いします。また、もう少しわかりやすい書き方をしてくれると、市民にも行政に協力しやすくなると思います。例えば、そもそも情報システムという言葉が何を意味しているのかわかりにくいし、また、「市民満足度を向上するため」といっても、他人行儀で堅い印象を受けます。

(西原委員)

- ・ 中柱「2 市政を支える意欲と能力のある人づくり」で市政を支えるという表現自体はよいのですが、市政を支えているのは市職員だけではありません。新市長は、地域運営協議会をつくろうとされています。各行政センター単位で、自治会、町内会の連合町内会や福祉、環境などその他の市民組織もまとめて協議会をつくろうと考えておられると理解しています。市政を支えているのは本庁職員や出先機関の職員の他に、無報酬のボランティアで活動をしている町内会等の各団体も末端の市政を支えています。市民に情報伝達し、また市民の意見を集約しているのは市の職員だけでなく、そうした団体ではないでしょうか。市政を支える人づくりは市職員の人づくりだけでなく、町内会の役員なども任せられる人探しにどこも非常に苦労しています。そういった視点が書き足りないような気がします。

(細野座長)

- ・ 情報システムには、市の組織の縦割りの弊害があり、こういった形で情報回路をつくりなおし、問題を皆で共有できるのか、そして、民でできることは民でやってもらうことで効率的な行政運営が可能となり、そこに情報システムを使おうという流れとして整理できるでしょう。NPOが急速に広がった背景には、ITによりコミュニケーショ

ンコストが非常に低く抑えられたことがあります。

(小野間委員)

- ・ 中柱「2 市政を支える意欲と能力のある人づくり」について市職員だけであればよいが、NPO など市民の人材育成も含むとすれば、それは8頁の「市民公益活動の促進」のところに入っていればよいと思います。
- ・ 9ページの2-1の小柱の説明で、「個々の職員が政策課題に対する問題意識を持つと同時に」とありますが、問題意識を持つと同時に、それをくみ上げて解決する能力が重要だと思うので、目標を書くのであれば、そこまで書いてよいのではないのでしょうか。

(細野座長)

- ・ 横須賀市内にはどのくらい大学がありますか。

(事務局)

- ・ 神奈川県立保健福祉大学、神奈川歯科大学、湘南短期大学、防衛大学校があります。

(細野座長)

- ・ 産官学連携の取組みはありますか。

(事務局)

- ・ 福祉関係の計画づくりや計画推進は、県立保健福祉大学との連携なしにはやっていけない状況です。

(細野座長)

- ・ まちづくりの取組みはありますか。

(事務局)

- ・ 神奈川県立保健福祉大学が、県立大学駅付近の旧市街地とニュータウンの中間に立地しています。同大学の学生がまちづくり協議会に関わりをもっており、盛んに活動しているようです。

(小野間委員)

- ・ 関東学院大学と追浜の商店街が連携した活動があるようです。

(事務局)

- ・ 関東学院大学が金沢八景駅近くに立地していますが、同大学と追浜商盛会がコラボレーションして空き店舗を利用した独自のワインづくりに取り組み、販売も行っています。また、同大学はまちづくりのハード整備にも関わっています。

(細野座長)

- ・ そうした活動を支えてあげれば、誇りを持つことができ、成功が成功を呼ぶ、良い循環ができるかもしれません。

(事務局)

- ・ 関東学院大学の住所は、横浜市ですが、追浜駅を利用する学生もいるようです。

(細野座長)

- ・ 一通りご意見をいただきましたし、有益なご議論ができたと思いますので、ここで議論は終了したいと思います。本日、出された意見については事務局でとりまとめ、施策体系の修正という形で書き換えられフィードバックされる予定ですので、よろしくをお願いします。

4. その他

(事務局)

- ・ 事務連絡が数点ございます。まず、次回の交流分科会は、3月19日(金)15:00-17:00にてお願い致します。
- ・ 4月以降については、まだ決定をしておりますが、座長・副座長と事務局とで調整をさせていただき、決定したいと思っております。現時点で、時間帯や曜日の都合が悪いと言う方がいらっしゃいましたら、後ほどでも結構ですので教えてください。

(細野座長)

- ・ 4名の欠席委員にも、本日の議事録を送付し、書面でもよいので意見を聴いてもらえますか。

(事務局)

- ・ 議事録をお送りする際に欠席された方からも意見をいただくようにいたします。

(以上)